

研究旅行レポート

C.S.

私は、大学2年の時、テレビでル・コルビュジエの特集をやっているのをたまたま目にした。私が初めて見た彼の作品は、近代建築の五原則が全て取り入れられているという、サヴォワ邸だった。実際、私は初めてこの建築物の映像を見ても何の感想も持たなかったし、どこにでもありそうな建物だと思った。しかし、その後彼の文献を読むことになり、たまたま見た映像だが妙に脳裏に焼きついていたので色々調査してみることにした。

ル・コルビュジエの作品は、パリ市内のあちこちや、スイス国境付近など、あらゆる場所に散らばって存在している。彼の作品の中でも、とりわけ形に特徴があり、だれもが目をひく、絵本の中に出てきそうな“Notre-Dame du Haut（通称：ロンシャン礼拝堂）”へ訪問した。パリから国鉄で約1時間かけ、Lure 駅へ。車内には、自転車を乗せるための車両もあり、日本では見られない光景をたくさん見た。パリ郊外の田園風景はとても心が和み、数 km 置きに次々と登場してくる教会や広い草原に放たれた家畜動物を見ていると時間がとまった空間のように感じられ、日本で普段忙しなく行動している自分の心が洗浄されるようだった。テレビではなく、本当に自分の目で見ているんだということが嬉しくてたまらなかった。Lure 駅からタクシーで約 20 分行ったところに、私たちの目指した Notre-Dame du Haut は存在したが、初めて目にした感想は、本当に人間の手によって建てられたものとは思えないくらい素晴らしく、ただ呆気にとられるばかりであった。技術や機械の発達した今の時代ならば考えられるが、この作品は幾年も昔に偉大な建築家のものでつくられたものである。見ていると、疑問が湧いてくるばかりでただ茫然と眺めてしまっていた。

この礼拝堂に入ってまず感じたことは、中がとても明るいということだ。しかし、サヴォワ邸のように、一面ガラス張りというわけではなく、窓は小さいのに光がよく差し込んでいる。よく見ると、内側が、窓に該当する部分の中に入っていくたびに大きくなっている。これは、よく考えられた光の取り入れ方である。それと同時に、窓には様々な明るい色が塗ってあり、見事にその色が映え、明るく輝いた空間を作り出している。さらに、窓をよく見てみると、葉や花、鳥など自然界に存在するものがたくさん描かれている。

次に、外から眺めたこの礼拝堂についてである。都市計画において、直線の美しさを提唱したル・コルビュジエだが、この Notre-Dame du Haut を見ると、彼の作品とは思えないようなユニークな形をしている。この形はきっと、『星の王子さま』の作者である Antoine de Saint-Exupéry と飛行を共にした時に抱いた曲線のなめらかさと美しさに影響を受けたに違いない。ル・コルビュジエは身体の内側になめらかさに魅了され、好意を抱いた女性もいるくらいなので、曲線を取り入れた作品を残すとは、よっぽど影響が大きかったのだろう。

この Notre-Dame du Haut は、小さな田舎まちの丘の上にそびえ立ち、世界中から観光客を引き寄せている。訪問のしるしに、日本から来た人の名前もたくさんあり、彼の偉大

さを改めて実感した。



←窓外からの様子



←内側。とても明るいのがよくわかる。

パリでは、世界遺産を立て続けに目にし、テレビや写真でしか見たことのないところにたくさん訪問できたので、毎日が新鮮で目からうろこの連続だった。移民が多いということはきいていたが、私の中でのいわゆる“フランス人”という概念を覆す人がたくさんいて、日本ももう少し移民に対して寛大になるべきではないかと思った。

私が最も印象に残ったのは、モンマルトルの丘の上から一望できるパリの街並みで、パリを独り占めしている感覚になり、その瞬間はまさに時間が止まっているかのような空間だった。言葉では言い表せないくらい感動した。また、どこを眺めても絵になる風景やパリを代表する La tour Eiffel、凱旋門を目にした時は夢のようだった。パリには一流ブランドの本店や、世界一の美術館、その他にも芸術に浸るには充分過ぎるほどの空間がある。ほんの僅かな滞在であったが、一流のものに触れられたことで感性を磨くことができた。

パリ以外に、ヴェルサイユとシャルトルへも足を運ぶことができた。大学 2 年次に受講していた授業に数回登場してきた教会。ステンドグラスが鮮やかに輝いており、行く時期や時間帯によってはまったく見え方が違うようだ。私たちが行ったときには、ちょうどミサが行われ、その様子を拝見することができた。この教会内には、キリストが誕生し、十字架にかけられるまでの一連のストーリーがつけられており、授業で習ったことばかりを目にすることができ、本物を見ることの意味を実感した。私は片端から写真をとっていたが、写真を撮ってそれを見ても意味がないと思った。実際肉眼で見てこそ意味があるもので、実際現地に赴き自分の目で見て初めて素晴らしさを実感するものである。



←Cathédrale Notre-Dame



←ステンドグラス

フランス滞在中の 4 日間はとにかく五感をフル活用させ、とにかくよく歩いた。同じ地球でも、あんなに違う世界が展開されている。人と人とのコミュニケーションのとり方の違いにも感動した。自分の中に取り入れたい要素がたくさんあった。このような貴重な体験の場を与えて下さった国際文化学部先生方、大変有難う御座いました。

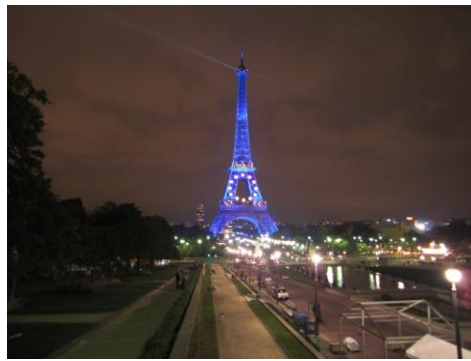
<旅の行程(9/14~19)>

- 1 日目：福岡発、香港経由でパリ・シャルルドゴール空港へ。
- 2 日目：早朝到着。バスでモンパルナスへ。ホテルにチェックインし、ガイドブックを持ってモンマルトルへ。サクレクール寺院、エッフェル塔、シャンゼリゼ通り、凱旋門へ。
- 3 日目：国鉄で **Notre-Dame du Haut** を目指す。ル・コルビュジエの建築に浸る。
- 4 日目：ヴェルサイユ、シャルトルへ。
- 5 日目：シテ島へ。ノートル・ダム大聖堂訪問。ルーブル美術館、オペラ・ガルニエ（概観のみ）訪問。午後、シャルルドゴール空港発、香港経由で帰国。

2008 年度

研究旅行

～建築家ル・コルビュジエを歩く～



国際文化学部 国際文化学科

C.S.